

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 12 月 6 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 2 年
氏名	齋藤 美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
タンザニア・カタヴィ国立公園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生マサイキリンの子育て戦略に関する調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 4 日 ~ 平成 28 年 12 月 1 日 (180 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
Tanzania Wildlife Research Institute/Tanzania National Parks
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
概要 報告者はタンザニア・カタヴィ国立公園に生息するマサイキリンを対象に、その子育て戦略を明らかにすることを目的とし渡航した。しかし、観察対象としていた幼獣が観察され始めたのが調査期間の後半と、こちらが推測していた時期から遅れていた。そのため、当初の目的とは異なるが、マサイキリンの 1. 個体間関係 2. 場面に応じた性年齢クラス毎の近接の傾向 3. 時間帯における行動、についてメインに調査を行った。
調査項目 1. 個体間関係 首の両側の模様を元に個体識別できた個体数は、Male22 頭, Female13 頭, Juvenile7 頭, Calf2 頭の計 44 頭であった。その内、5 回以上観察できた Male15 頭, Female9 頭, Juvenile7 頭, Calf2 頭の計 33 頭を DAI (Dyadic Association Index) 解析に用いる予定である。また、これらの個体のうち 2010 年と 2011 年にも観察された個体の個体間関係の変化についても解析を進める。さらに、観察を行った子育て集団の子のうちの一頭が、調査期間の途中から一度も観察されなくなる事例があった (ライオンに捕食されたと考えている)。そこで、子がいなくなる前後でその子育て集団の母親間の社会観関係がどのように変化したのか、解析を行う予定である。 2. 場面に応じた性年齢クラス毎の近接の傾向 個体追跡を行った個体数は Male14 頭, Female11 頭, Juvenile7 頭, Calf3 頭の計 35 頭であった。そのうち、目標としていた 10 時間以上追跡できた個体数は Male5 頭, Female5 頭, Juvenile7 頭, Calf2 頭の計 19 頭であった。 現在、近接を受けた相手の行動を、移動、採食、休息、社会行動、その他の 5 つのカテゴリーに分けて近接相手や近接時間に差があるか分析を進めている。 3. 時間帯における行動パターン 10 分ごとに集団の各個体の行動を、5 つのカテゴリーに分類して記録した。今後、時間帯毎に見られる行動パターンについて解析を行う予定である。
今回の渡航を振り返って 私的な訪問も含めてこの調査地を訪れるのは今回で六回目になり、大体の環境は把握していたが、それでもやはり今までで最も長い調査期間を設けていたので、渡航前に不安は多少あった。修士のころは、未知の環境で浮足立っていた部分があったが、今回は人間関係も十分に構築されていたため、日々落ち着いて調査に取り組むことが出来、これは良い点であった。 初めてこの調査地を訪れたのは 2010 年になる。そのころから観察していたキリンと遭遇したときは非常に嬉しかった。特に、2010 年にはお乳を飲んでいて個体が、今回は集団の先頭で移動を開始し、他の個体はその個体に追従して移動していく様子を見たときは何とも言えない気持ちになった。そのようなキリンの成長を観察できたことは感慨深く、また、キリン以外の他の動植物も日々様々な表情を見せて <平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

くれ、この環境に戻ってこれて良かった、と改めて感じた。

報告者は調査を行う際にレンジャーの協力が必要不可欠である。今回は修士のころとは違い、理解ある公園幹部の方の協力があり、非常にレンジャーに恵まれたと感じている。そのレンジャーの協力があった、この長い調査期間を何とか乗り切れたと感じている。

彼らの協力を無駄にしないためにも、報告者が見て感じてきたものを何とか形にしたい。



写真1. カバが川を渡るのをじっと見つめるキリンの成獣三頭と、幼獣一頭。その後、カバが川を渡り終えてから、キリンも川を渡る。



写真2. 成獣オス。2011年に産まれた個体。

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。プログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。また、調査期間中はカタヴィ国立公園関係者の皆様、特にレンジャーには大変お世話になりました。感謝申し上げます。